

総額約 487 百万円の一般会計補正のうち主な項目

事業名	額(千円)	説明
ふるさと納税推進	12,531	寄付増加見込
政策選択基金積立	25,000	寄付者増加見込積立
市債償還	115,179	前年度繰越財源で償還
地球温暖化対策	2,400	炭蓄電器総合C配置
児童福祉施設整備	16,835	秒児施設整備他
有害鳥獣捕獲奨励	9,653	有害鳥獣駆除
園芸ハウス整備実証	6,700	園芸ハウス整備支援
地域商業支援	11,291	商業環境整備補助
木次健康温泉センター	21,000	おろち湯ったり館改修
たたらば壱番地	27,500	浄化槽改修
加茂小学校給食管理	10,321	キュービクル修繕等
起債道路整備	88,400	岸田線交差点改良他

一般会計補正予算

続いて平成二十九年度一般会計補正予算などの議案を審議、原案通り可決、認定しました。このほか、議員発議による地方財政の充実・強化を求める意見書、地方の道路整備促進を求める意見書も可決しました。

九月一日から、二十七日までの会期日程で九月定例会が開催されました。

開会にあたり、速水市長から中心市街地活性化事業、食の幸発信事業、合併特例債の再延長などについて所信表明がありました。

九月定例会開会

決算審査

議会は予算の審査、議決ばかりでなく議決された予算が適切に執行されたかどうかのチェック機能も有しています。

一八年度の主要施策約三百項目について常任委員会ごとに審査を行いました。大きな問題はなかつたものの会計の適正処理に向けた仕組み作りや公平性を担保した業務執行について意見が出されました。

議会 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 838
電兼 FAX 49-6373

加茂交流センター建設に向けて



舟木会長から速水市長に要望書が手渡されました (9月 13 日)

「平和を」を考える

「加茂まちづくり協議会」は、地区計画の着実な実行には拠点整備が不可欠であること、災害時の緊急避難場所としての機能も整備しなければならないことを踏まえて「加茂新交流センター建設委員会」を立ち上げ検討を進めてきました。こうした経緯を経て、平成二十九年九月

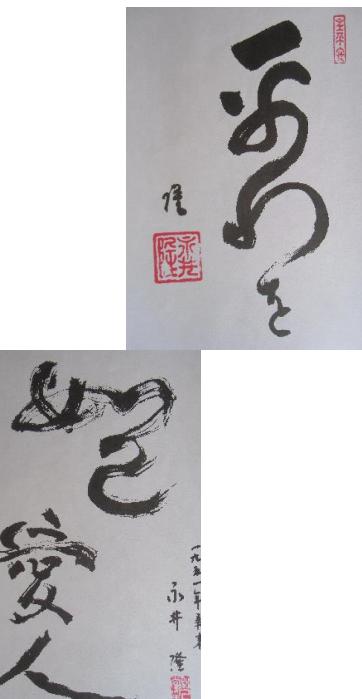
最近、北朝鮮のミサイル発射や核実験が相次いでいます。米朝のトップによる非難が、応酬合戦もエスカレートしてきました。

三刀屋町の永井隆記念館は築後四十七年を経過し老朽化していることから平成三十一年頃を中途に建て替える計画が進

「加茂まちづくり協議会」の舟木清会長から速水市長に對して拠点整備に向けた要望書が提出されました(写真)。新拠点の構想について、「加茂新交流センター建設委員会」の福島正二委員長から、委員会で議論された様々な要望を盛り込んだ建設プランの説明がありました。

これに対し、速水市長から「要望の趣旨はしつかり受け止めた。市として中期財政計画を策定する中で、出来るだけ早期に実現していきたい」と実現に前向きの回答がありました。今後、財源の確保や実施計画に盛り込むなど様々な手続きが必要ですが、前進に向け一步踏み出しましたことは朗報です。

雲南市は「平和を」と「如己愛人」の精神で世界平和を訴え続けられた永井隆博士の故郷(松江市生まれ、三刀屋町育ち)です。博士は旧制松江中学を卒業後、長崎医科大学で学び、同大の教授になりました。原爆で妻を失い、自らも被爆の身ながら献身的に被爆者の治療に当たり四十三歳で亡くなりました。雲南市は博士の「平和を」の精神を引き継ぎ平成十八年、平和への誓いと宣言を行っています。



雲南市戦没者追悼式

七月七日、ラメールで雲南市戦没者追悼式が行われ、遺族会の方をはじめ多数の参列者がありました。黙とうの後、速水市長から「平和な世界の実現に向け努力を重ねることを誓う」と追悼の言葉と献花がありました。

当日は、加茂小学校の六年生児童も出席しました。身近な人々から戦争体験や悲惨な生活話を聞くことができ、平和への想いを新たにしたのではないかと思います。広島や長崎に行つて学ぶことも大切ですが、身近なところから平和教育を行っていくことも重要なことです。

長崎永井隆記念館

は八月一日、姉妹館締結をしている長崎市永井隆記念館を訪問、友好を深めるとともに、新・永井隆記念館のあり方を検討するための視察を行いました。

長崎市永井隆記念館の展示はビジュアルでディスプレーもわかりやすく表示されていました。また、二階は児童生徒向けの図書館になっており、長崎市内の他図書館の書籍を借りたり返却できるシステムが整備されており参考になりました(雲南市でも加茂、大東、木次の書籍は相互に貸し借りが可能です)。



永井隆博士

平成二十九年九月定例会の一般質問に立った議員は十七名、近年になく多くの議員が登壇しました。中林たかしは、三日目に次の一項について一般質問を行いました。

たかさんの一般質問

大規模な修繕となると費用も大きくなる。財源として合併特例債の活用が相応しいと考えるが、平成三十一年度には適用期限を迎える。財政計画も考慮しながら早急な対応が必要だ。

答（総務部長）

合併特例債を利用するには島根県と協議しなければならない。過去の経験から、大規模な長寿命化修繕であれば合併特例債の対応は可能と考える。

「雲南省行財政改革審議会」の諮問を基に公共施設の適正管理を行うとのことであるが、過年度に示されている「公の施設の見直しについては白紙撤回すると解してよいか。

答（総務部長）

今回の実施方針は、今までに策定した各方針をベースに具体的に明確化していくものである。白紙にする考えではない。

問

ラメールは築後二十三年を経過し、特に冬季の暖房の効きが悪く観客、出演者とも寒い思いをしている。舞台機構、音響、照明も老朽化が進んでいる。審議会の答申は尊重しなければならないが対策が必要だ。

答（総務部長）

現在、ラメールの修繕は実施計画にはない。今後、施設の長寿命化対策の中で検討していく。

問

七百席クラスの中規模ホールの利用状況は県内でも断トツを誇る。本市が進める文化・スポーツ施設を活用した取り組みは注目を集めしており、強みを発揮するため早期の改修が責務と考える。提言をしつかり受け止め対応していく。

答（市長）

入賞者は、被ばく一世、三世と戦争や被ばくを直接体験したことのない人です。いずれも心に響く秀作ぞろいで、祖父母からの語りでも立派に戦争の悲惨さを伝えることができています。しかし、四世、五世となると恐らく伝承だけでは難しいでしょう。文章に残さなければ後世に伝えることが難しいと感じました。永井隆平和賞が「平和を」を後世に伝えていく事業であることの意義があります。

企業誘致も必要だが、地域経済を引っ張る中核企業を育てることも必要だ。企業留置という考え方もある。やる気と能力ある地元中小企業への支援策について伺う。

答（産業観光部長）

企業立地優遇制度の拡充は、現在、府内で協議中。対象業種の幅や基本助成への地域貢献加算とかも含め検討していく。

答（産業観光部長）

食品表示法が施行され、猶予期限が平成三十二年に迫っている。表示方法の変更は市内食品製造業者にとつて負担にもチャンスにもなる。対策は十分か。

商工業振興策

雲南省中小企業振興基本条例は制定後三年を経過した。成果と反省点について伺う。

答（産業観光部長）

同条例に基づき平成二十六年五月、雲南省地域経済振興会議（振興会議）を設置した。大学や行政機関、経済団体など専門的な立場から協議検討してもらっている。提案事項は経済振興のため必要に応じて市政に反映、予算化していく。

問

振興会議で議論されていることではあるが、近年、本市の事業所数、従業者数とも減少しており対策が必要だ。地域経済を発展させる一つの鍵が地域内経済の循環と考へる。消費の現状を把握し施策に反映させていくか。

答（市長）

かなりの購買が出雲市へ流れているのは事実。ただ、出雲市の地元商店で購買しているわけではなく大型店へ流れていると見るべきだ。地域内循環を高めるために安心・安全、新鮮さ売りにする食材のようないもの育てることが必要である。普段の生活に必要な食材は地元で購買する仕組みが必要だと改めて思つたところ。



暑かつた今年の夏も過ごしやすい季節になりました。幸い当地は台風などの大きな災害を受けずに済みましたが、関東や東北は天候不順で野菜の値段が高騰し家計を直撃しているようです。一方、島根県はミサイルの進路だと名指しされ、大変心配な思いで報道を見守っていました。天災は困つたのですが、軍事行動のトバッチャリだけは断固お断りです。

第十六回目の神宝火祭りが八月十九日に加茂町の神原神社で行われ、大勢の人出でにぎわいました。南加茂貴船神社の先代

宮司が京都鞍馬の貴船神社と親交があり、その縁で火祭りが始まりました。来年も多くの皆様のお越しをお待ちしています。（たかし）

